

革命党の言葉づかいで

また文体の見地からいっても、駆逐のかわりにこの「意義の増大と役割の縮小」という言葉をつかうのは、のぞましくない。これは、革命党の言葉づかいではなく、『ルースキエ・ヴェードモスチ』の言葉づかいである。これは社会主義の伝道の用語ではなく、統計集の用語である。この言葉は、ここに特徴づけられている過程が、激烈でない、なんら明確な終りをもたない過程、苦痛のない過程であるような印象を、読者にいだかせるために、わざとえらんだかのようなのである。だが、事実はその正反対であるのだから、**そのかぎり**でこの言葉はまったく真実に反するのである。われわれは、**もっとも抽象的な定式化**をえらぶわけにはいかないし、またえらんではならない。なぜなら、われわれは批判家を攻撃する論文を書いているのではなく、クスターリや農民の大衆にむかって呼びかけている戦う党の綱領を書いているのだからである。われわれは彼らにむかっては、資本が「彼らを下僕や貢納者とし」、彼らを「零落させ」、彼らをプロレタリアートの隊列へ「駆逐している」ことを、**klipp und klar**〔明白また明瞭に〕かたらなければならない。そういう定式化だけが、どのクスターリにもどの農民にも幾千の実例が知られている事からの、**真実の描写**となるであろう。また、そういう定式化からのみ、諸君のためのただ一つの救いはプロレタリアートの党に味方することである、という結論が、**不可避的に**出てくるであろう。

注) レーニンの「大規模生産によって小規模生産がますます駆逐される」という表現に対し、プレハーノフが「大企業の経済的意義の増大、小企業の相対数の減少、国の社会＝経済生活における小企業の役割の縮小」という表現提案した。

第六卷 プレハーノフの第二次綱領草案にたいする意見 P28

1902年2月末～3月初めに執筆

コメント

私たちは、抽象的な、「激烈でない、なんら明確な終りをもたない過程、苦痛のない過程であるような印象を」あたえる言葉ではなく、党の立場を「明白また明瞭に」示した革命党の言葉づかいで定式化しなければならない。